



2015年(平成27年)
7月31日(金)
(旧暦 6月16日) 先負

デリー東北新聞社
〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12
☎0178-44-5111
©デリー東北新聞社2015

もう一つの学校

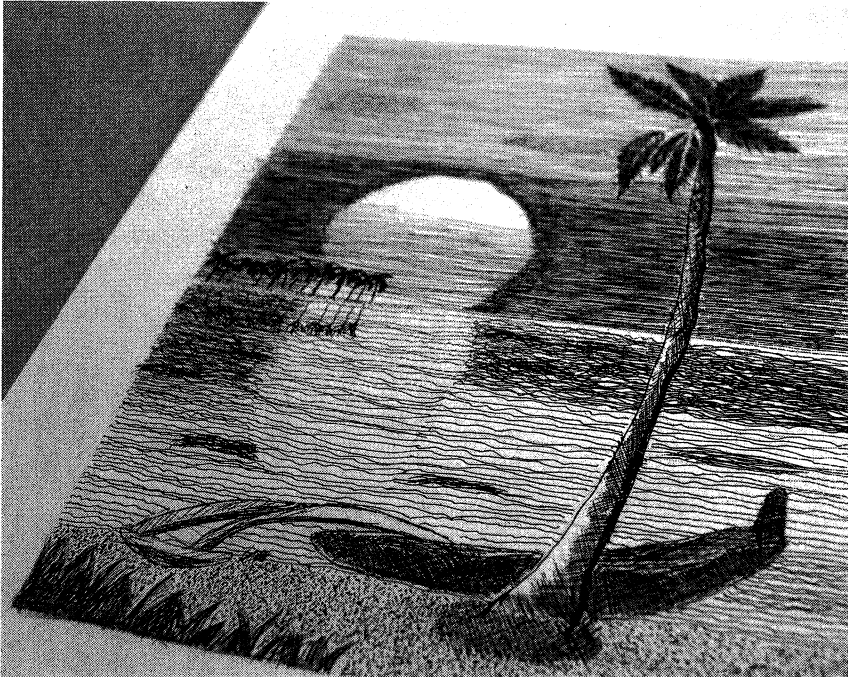
八戸あおば高等学院から

八戸あおば高等学院に通う高2女子のA子さん(17)は小5の時、アスペルガー症候群と診断された。統合失調症を患う母親と共に、二人三脚で成長を重ねてきた。「卒業後は1人で専門学校に毎日通い、自立して暮らしていきたい」。将来に向け、規則正しい生活リズムを心掛ける。(玉川那津美)

アスペルガー症候群の女子生徒

自分の未来つぶしたくない

「学校に来られない時は、家のことをやります」。あおば学院の晴山一貫事務局長の呼び掛け通り、家では洗



ボールペン画を学ぶ特別授業で完成させたA子さんの作品

母と二人三脚、自立目指す

みがちになると無理にでも登校させようとした。今は自分のペースで通える。毎日でも行くよう努力している。

約2年が経過し、担当者から「復帰できないのは、もしかしたら他の理由があるのかもしれない」と言われ、発達障害専門の病院で検査を受けた。結果は、自閉症の一つのタイプであるアスペルガー症候群だった。

確かに、アスペルガーの症状を思わせる言動があった。幼少時の発達が早く、こだわりが強かった。2歳児にして自らおもちゃを取り換え、自分の信念や特定の物に対する執着心が強かった。

「今の時間を娘と一緒に楽しみたい」。やっとそう感じられるようになった。「入学当初と比べ、見違えるように明るくなった」。晴山事務局

「専門学校に進学したら、みんなと同じ生活を送らなければならぬ。そのためには、今から学校になじんでおかないと。アスペルガー症候群のせいで、自分の未来をつぶすことなんてしたくない。」

教育センター内の「うみねこ教室」に通った。そこでは、さまざまな理由で学校や勉強に適應できなかった子どもたちが、それぞれの小中学校に籍を置きながら学習していた。

通常の学校教育に近い環境で集団生活を学ぶ毎日。学校に戻れるように頑張ったが、そう簡単にはいかなかった。

母親が統合失調症と診断されたのは、Aさんが1歳のころ。現在、2人暮らし、生活保護を受けている。娘のため、働きたい気持ちは強い。それとは裏腹に、仕事に集中すると幻聴が聞こえ、パニックを起こしてしまう。

娘が中学を卒業するまで、ほとんど付きっきりの生活を送った。だが、あおば学院に通い始めてからは、教職員が生徒一人一人をケアしてくれる。親の相談にも乗り、不安も聞いてくれるから助かっている。

「この時間を娘と一緒に楽しみたい」。やっとそう感じられるようになった。「入学当初と比べ、見違えるように明るくなった」。晴山事務局

卒業後は、グラフィックデザインを学ぶため、仙台市内の専門学校に進みたいと考えている。今年は、文化祭とオープンキャンパスに足を運び、学生生活に胸を膨らませた。

子どもも育む

毎週金曜日に掲載

この企画への意見をお待ちしております。取材をお願いする場合があります。断りなく氏名などを紙面に掲載することはありません。宛先は、〒031-8601(住所不要)デリー東北報道部「あおば学院取材班」へ。ファクスは0178(45)5900、電子メールアドレスはaoba@daily-tohoku.co.jp